

第4回統計委員会と統計利用者との意見交換会について
～サービス活動に係る統計の整備～

平成 23 年 2 月 24 日
内閣府統計委員会担当室

1. 背景及び目的

経済のサービス化が進展し、日本の国内総生産の約 7 割を占めるに至ったサービス産業については、その健全な発展と生産性の向上が重要な政策課題であり、昨年 6 月に閣議決定された「新成長戦略」においても、ライフ・イノベーション等の多様なサービス活動が今後の我が国の成長の担い手として期待されている。サービス産業は規模や活動内容について拡大・多様化が進んでおり、こうした産業構造の変化に対応して統計も整備されることが必要である。

政府統計においては、経済センサスをはじめ、サービス産業動向調査や特定サービス産業実態調査・動態統計調査等のサービス活動に係る統計整備が順次進められてきており、今後も継続的な整備が求められている。また、基本計画において指摘されているように、サービスの質を踏まえたアウトプットや生産性の測定が困難なサービス活動について、将来の望ましい統計作成に向け、サービス活動を適切にとらえるための研究が求められている。

このような背景から、質や量の把握の向上等が今後期待されるサービス活動に係る統計の整備に資することを目的として統計委員会と統計利用者との意見交換会を開催する。

2. ご説明・ご意見を伺う統計利用者

○（独）経済産業研究所（RIETI）副所長 森川 正之

「サービス産業の生産性：統計利用者の立場から」

○大妻女子大学社会情報学部 教授 浅井 澄子

「情報通信分野における統計データ整備の現状と問題点

ー電気通信・インターネット・コンテンツー」

○東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科医療経済学分野 教授 川淵 孝一

「医療分野における統計データ活用の現状と課題」

3. 意見交換会の論点

①サービス産業の生産性について

- ・サービス産業の生産性に関する実証分析は製造業に比べて大きく遅れているが、サービス産業の生産性について統計を用いてどのようなことがわかっているのか（例えば、昨今の傾向として生産性が向上しているサービス業の分野はどのような分野で、どのような結果から読み取ることができるのか等）。また、サービス活動に関する計測上の問題点や必要なデータ整備は何か。
- ・また、諸外国の取組状況や最新の研究成果としてどのようなものがあるのか。

②サービス産業の分析の高度化に必要な視点について

今後の、サービス産業に関する実証分析を高度化していくために必要な統計整備の方向性として、どのようなものが考えられるのか。

以上